

第 1 回渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会
議事要旨

【概 要】

日 時	平成 27 年 11 月 16 日 (月) 10 : 00~11 : 40
場 所	栃木市藤岡遊水池会館 2 階 大会議室
議 事	(1) 開催背景について (2) 設立趣旨(案)・規約(案)・名簿 (案)・傍聴要領 (案) について (3) 座長の選出について (4) コウノトリをシンボルとした自然再生について (千葉県野田市) (5) 今後の進め方について
配布資料	1. 議 事 次 第 2. 出席者名簿 3. 出席者席配置図 4. 資料 1 : 開催背景 5. 資料 2 : 設立趣旨(案)・規約(案)・名簿 (案)・傍聴要領 (案) 6. 資料 3 : コウノトリをシンボルとした自然再生 7. 資料 4 : 今後の進め方 8. 参考資料 1 : 関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想 (平成 27 年 3 月策定) 9. 参考資料 2 : 野田市コウノトリ生息域内保全実施計画【試験放鳥編】 10. 参考資料 3 : コウノトリの関東地域における野生復帰にむけて (野田市パンフレット) 11. 参考資料 : ラムサールふゆみずたんぼ米 (小山市チラシ)
出席者	配付資料「出席者名簿」のとおり
会議風景	

【内 容】(敬称略)

■開会

- ・司会進行役

■あいさつ

(事務所長) 事務局を代表しまして、ごあいさつ致します。本日は、週のはじめの慌ただしいところ「渡良瀬遊水地エリアエコロジカル・ネットワーク推進協議会」の立ち上げの会議にご出席頂き、誠にありがとうございます。本協議会は、トキ・コウノトリなどが舞う魅力あるまちづくりを目指していく会議と位置付けています。関東地方整備局全体としては、平成 20、21 年から構想に関する検討会を重ねてきており、昨年度、関東全体のエコロジカル・ネットワークの基本構想を策定したところです。コウノトリ・トキが生息できるようなまちづくり、環境づくりの概ねの柱が出来上がってきているので、各地域で具体化するための活動を始めていきたいと考えています。渡良瀬遊水地は日本有数の規模を誇るヨシを中心とした湿原で、高い環境ポテンシャルを有しており、平成 24 年にはラムサール条約にも登録されています。この遊水地の自然資源を活かして、地域振興にも貢献できればと思っています。遊水地はいろいろなポテンシャルを既に有しているところですが、皆さんから意見を頂いて更にポテンシャルを高めていきたいと考えています。遊水地だけでなく、周辺の地域の方々の支援・協力を受けてはじめてコウノトリ・トキなどが生息できる環境が整備できるのではないかと思います。今後、議論を深めていく中で、更に連携の輪を広げていきたいと考えており、本日がそのスタートとなるので、ぜひ成功に向け皆さまのご協力をお願いします。

■議事 1：開催背景について

- ※「資料 1：開催背景」の説明

■議事 2：設立趣旨(案)・規約(案)・名簿(案)・傍聴要領(案)について

- ※「資料 2：設立趣旨(案)・規約(案)・名簿(案)・傍聴要領(案)について」の説明

■議事 1 および 2 についての質疑

(関係市町) 2 点、質問したい。1 点目が、規約案 p3、「渡良瀬遊水地エリア」とはどこを指しているのか、p5 の関係市町とはどこなのか。

2 点目は第 2 条の目的「トキやコウノトリなどを指標とした『河川及び周辺地域』」とあるが「渡良瀬遊水地エリア」の間違いではないか。

(事務局) 今までは渡良瀬遊水地の中での議論が中心だったが、今回はそれよりも対象範囲を広げて、周辺の農地等色々な環境を含めて「エリア」という言葉を使用している。現時点はこの場に参加して頂いている 10 市町が「エリア」に該当するが、今後メンバーの拡充も含めて話題が出れば広げていきたいと思っている。2 点目については「渡良瀬遊水地エリア」と置き換えていただいても、意味としてはよいと思う。

(関係市町)「河川および周辺地域」という表現では、渡良瀬遊水地が入ってこないのではないかな。そこに疑問がある。

(事務局) 事務局としては、「河川」の中に渡良瀬遊水地が含まれるという認識でいる。それが一般的に分かりづらいということであれば修正したいと思う。他の委員の方々でも、この点についてご意見があればお願いしたい。

(有識者) 「渡良瀬遊水地エリア」については、「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」、あるいは渡良瀬ワーキングや勉強会で言っているエリアと同じで良いと思う。ただ、小山市長から周辺地域とはどこを指すのかという意見があった。この部分は「渡良瀬遊水地エリア」とした方が、分かりやすいのではないかと思う。

(事務所長) 「渡良瀬遊水地と周辺地域」ということで理解して頂いていると思う。ただ、「河川」と書くと、そこに渡良瀬遊水地が含まれるのか分かりにくいということだと思うので、「河川」の後にカッコ書きで「(渡良瀬遊水地を含む)」と加えることで理解しやすいと思うが、それでどうか。

(関係市町) それで大丈夫です。

(事務局) それでは、第2条の3行目については、「河川」の後に「(渡良瀬遊水地を含む)」を加える形で修正する。また、協議会の名称も仮称となっているが、名称について意見等はあるか。

※特に意見なし

(事務局) 協議会の正式な名称は(仮称)をとった形とし、(案)も削除したい。

■議事3：座長の選出について

※事務局の提案により決定

座長挨拶

(座長) ただ今座長に選出されました。よろしく申し上げます。

本日、「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」が正式に立ち上がったが、今年の3月に関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会が「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」を発表した。その中では「豊かな自然環境の指標として生態系ピラミッドの高次消費者であるコウノトリ・トキに注目し、自然の持つ防災・減災機能を高める治水と一体化した河川環境整備や生物多様性を育む農法を推進し」と示されている。この代表例がまさに渡良瀬遊水地だと思う。また、多様な生物の生息環境の保全・再生、環境と経済の調和を図った地域振興、地域経済の活性化および経済的な成長を支える都市部への安全を視野に入れた取組みが推進されている。これはまさに広域連携による人と人とのきずなを深め、更には人も生き物も安全・安心に過ごせる地域の自立的な発展に貢献することだと思う。

本日が第一歩だが、渡良瀬遊水地の取組みがどんどん進んでいくことが期待される。

多様な自治体等が協働・連携して、コウノトリ・トキを指標とした河川および周辺地域における自然環境の保全・再生方策の推進と合わせ、この部分が重要だが、コウノトリやトキをシンボルとしたにぎわいのある地域振興・経済活性化方策に取り組んでいく必要があると思う。まさに広域連携をモデルとしたエコロジカル・ネットワーク形成によるトキ・コウノトリの舞う魅力的な地域づくりの実現を目指して活動していくための土台が、本日満たされたと思っている。

渡良瀬遊水地では、平成 22 年に「湿地保全再生基本計画」ができてから試験掘削が進められているが、鳥だけでもコハクチョウ、コウノトリ、ナベヅル、ヘラサギ、シロハラクイナ、マガン、サンカノゴイ、アオジ、オオセッカなどの貴重な鳥類が試験掘削地とその周辺を訪れている。治水機能を向上させながら生物多様性も向上させている非常に良い例だと思う。しかし、試験掘削地を放っておくと単純化して生物多様性がなくなってしまうため、治水と同様に人が関わり続けることが重要である。それと同時に遊水地だけでなく、周辺地域の農業、産業と連携していくことが必要だと思う。更には今年の 8 月に国が「国土形成計画全国計画」をまとめている。その中で、防災・減災と自然環境の再生の両立が掲げられている。「国土の適切な管理により、安全・安心で持続可能な国土の形成」「農地、森林の保全と多面的機能の発揮」更には「美しい景観や自然環境との保全・再生・活用」が挙げられている。特に「防災・減災と自然環境の再生の両立」が挙げられており、重要な視点だと思う。今年の 9 月に大水害があったが、8 月の計画では渡良瀬遊水地が防災・減災と自然環境の両立という項目で紹介されていた。それが 9 月の災害で確かめられることとなった。平成 2 年に渡良瀬遊水地が完成し、この 20 数年間で最大の貯水量があった。栃木市、小山市ではなかなか水が抜けないということで苦労されたと思うが、渡良瀬遊水地の治水機能としてはしっかり機能していた。

自然の再生・保全と両立し、更に地域振興までを今後どう広げていくのかが、この協議会の大きな役割になると思う。今後長い時間がかかると思うが、皆さまのご協力をお願いしたいと思う。

■議事 4：コウノトリをシンボルとした自然再生について（千葉県野田市）

※「資料 3：コウノトリをシンボルとした自然再生」について野田市より説明

（野田市）本日、「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」の設立おめでとうございます。「利根運河周辺エリア」に入っている野田市では、自然再生・保全、生物多様性に取り組んでおり、その取組の一環として水辺の生態系の頂点に位置するコウノトリを飼育し、今年の 7 月 23 日に試験放鳥をしている。今年生まれた 3 羽は、最初は野田市の周辺にいたが、現在は茨城県、石川県、岡山県におり、元気に餌を食べている状況が確認されている。専門家によると、若いうちは遠くまで行くが、成長すると遠くからでも戻ってくるそうなので、再び戻ってくることを期待している。エコロジカル・ネットワークの形成や生物多様性の取組みには、各エリアによる情報共有と連携が不可欠だと考えているので、今後ともよろしくお願いします。今後の「渡良瀬遊水地エリア」のますますの発展を祈念しまして、挨拶とさせていただきます。

※資料説明概要

- ・2012年12月4日からコウノトリの飼育を開始し、3年連続で繁殖に成功。今年7月23日に3羽を試験放鳥。
- ・現在、日本国内で200羽を超えるコウノトリが飼育されており、野外には87羽が生息。
- ・野田市での放鳥は、ソフトリリース方式を採用。
- ・平成28、29年も試験放鳥を実施する予定。
- ・コウノトリ試験放鳥前の準備として、「利根運河周辺エリア」で近隣の9市町と連絡協議会を立ち上げ、現在は今後の活動について協議・検討中。
- ・放鳥したコウノトリには、GPSを装着し位置情報を把握。
- ・野田市独自の準備として「コウノトリ見守りチラシ（コウノトリを見かけたときの注意事項等）」を、野田市や近隣自治体に配布し周知活動を実施。
また、コウノトリに150m以上近づかない、エサを与えない、という条例を制定。
- ・放鳥された3羽は、現在野田市から非常に遠い茨城県、石川県、岡山県にいる。
- ・試験放鳥されたコウノトリが長期間滞在した茨城県常総市は、カエルの密度が多地点に比べて非常に多かったという報告がある（東邦大学・長谷川教授による調査の中間報告）。
- ・野田市の取組みとしては、現在、サントリー世界愛鳥基金からの助成金1,100万円を頂き、コウノトリの野生復帰に係る活動に関する取組みの費用は、ここから出している。今後4年間ほどは助成金を申請しようと考えている。
- ・江戸川沿いでは、江戸川河川事務所によるワンド整備や利根運河の水質改善、休耕田の湿地再生については、東京理科大学が取組んでいる。
- ・現時点で、市内の水田956haの52%の水田で野田市の環境にやさしい農法である玄米黒酢農法を実施しており、慣行農法の米より若干高値で売られている。

■議事5：今後の進め方について

※「資料4：今後の進め方」の説明

■議事5についての質疑

(関係市町) 到達目的がよく分からない。「多様な生物の生息可能な自然環境の保全・再生方を推進し、にぎわいのある地域振興、経済活性化方策に取組むと共に広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成による魅力的な地域づくり」とある。例えば本市では、コウノトリ・トキの野生復帰のための環境にやさしい農業の推進として、冬みずたんぼ・夏みずたんぼなどに取組み、コウノトリ・トキの餌場や営巣場所づくりをしている。皆で仲良く連携して取組むというのは分かるが、具体策を明確にする必要がある。野田市の黒酢農法のような具体策がないと、目標もはっきりしないと思う。PDCAが、できるようにして頂きたい。

(事務局) ただ今の意見の通りだと思う。今後、そのような内容を「検討部会」で議論し、皆が動きやすいもの、最終的にはアクションプランを作っていきたいと考えている。

(座長) 「検討部会」では、具体策について詰めていくということをお願いします。

(関係市町) トキやコウノトリを自然再生の指標にするのは賛成だが、トキ・コウノトリそのも

のを増やしていくことを目標にしてしまうと、関係自治体で温度差があると思うので、それらを指標にすることによって、渡良瀬遊水地の自然の魅力を高めていくことを大きな目標とすることが良いと思っている。そういう方向を目指していくために、本協議会ができたと思う。渡良瀬遊水地の広大な自然を皆で盛り上げていくということで、私たち自身も努力していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(事務局) これから検討が始まると思うので、ただ今頂いた意見も含めて進めていきたいと思っている。

(座長) コウノトリ・トキが飛来・定着できる環境を目指すことで、他の鳥類も来ることにもなり、それが自然のポテンシャルを高めていくことだと思う。

(関係市町) 「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」で方向が定まっている中で、「渡良瀬遊水地エリア」でもあくまでも全体的な視野を持つことが一番重要だと思う。野田市の素晴らしい取組みが既にあるので、そのような情報の共有が非常に重要。その情報を1自治体だけではなく、周辺全体として一体感を持ち共通財産としなければ、各自治体の取組みがバラバラに進んでしまう。その点に注意しながら進めていって欲しい。コウノトリ・トキはあくまでも象徴であると思うので、渡良瀬遊水地の自然環境が周辺自治体の誇れる環境として、どこの自治体でも同じような情報を発信できるようにすることが、大きな意味での地域振興にもつながると思う。

(事務局) この会議の内容自体も、HP等で公開する予定。それ以前の話として、本日お集まり頂いた自治体との情報共有が重要だと認識しているので、今後の「検討部会」等では、その点に注意しながら進めていきたいと思う。

(有識者) 今後のスケジュールの中で、年度内に検討部会が2回開催予定となっているが、図だけ見ていると、「検討部会」でどのようなことを絞り込んでいくかのイメージが見えてこない。規約に基づいて考えると第2条の目的の中で、1つ目としてトキやコウノトリなどを指標とした自然環境の保全・再生方策、2つ目として地域の振興・経済活性化方策に取り組む、3つ目として広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成、これらが「検討部会」の内容になると思う。まずは自然環境の保全・再生については渡良瀬遊水池だけではなく、いろいろなところで湿地再生等の取組みが進んでいるので、コウノトリ・トキの生息のためのポテンシャルが現在どのくらいあるのか等を考える。2つ目については有識者と共に地域で頑張っている人たちが渡良瀬遊水地に特徴的で、コウノトリあるいは生物多様性の観点も含めて良いアイデアがないか考えていく。これには地域の人たちの思いが大切になってくる。3つ目に関しては、渡良瀬遊水地だけではできず、周辺の主体と考えていくことになると思う。これに関しては、まだ後回しでも良いと思う。まずは次の「検討部会」で何を具体的に議論するのかをなるべく早く決定し、情報共有してほしいと思う。

(座長) 次は1月に予定されているので、どのように「検討部会」を進めていくのかを詰めていってもらえたらと思う。

(有識者) 目標の話に関連して、水辺環境に依存している鳥としてサギ類がいる。私たちの研究所では水田や農業水路の環境における生物多様性の指標種としてサギ類を採用して研究している。水田・水路・湖沼における土地利用との関係も分かってきているので、情報を提供できると思う。また、貴重な水辺環境である「渡良瀬遊水地エリア」についても、サギ類の生態を調べることで、コウノトリ・トキについても何か到達目標につながる提案ができると思う。相乗効果のようなものもあると思う。「検討部会」とは少し違うかもしれないが、この周辺でサギ類のコロニーの情報があればぜひ情報提供して頂いて、それを研究し、その成果を伝えることができると思う。

(関係市町) 冬みずたんぼ 7ha、夏みずたんぼ 48ha を既に実施している。すると、サギ類がものすごく増えた。佐野市から本市に来ると急にサギ類が増えるので、本市に着いたことが分かるくらい。サギ類に関してでも構わないので、ぜひ本市でも実験してください。

(座長) 「渡良瀬遊水地エリア」内のサギ類の集団ねぐら・繁殖地の情報提供をぜひお願いしたい。夏みずたんぼも見たが、確かにサギ類が数多く集まっていたので、環境が少し変わるだけでも生き物が集まるということが分かった。

(有識者) 今後の進め方で、年度内に 2 回の検討部会をすることになっている。私は「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」の委員にもなっているが、それと全く同じものをやっても面白くない。このエリアならではの地域的な特徴あるものをやっていきたいと思っているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

■その他

※「参考資料 1：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想（平成 27 年 3 月策定）」および「参考資料 2：野田市コウノトリ生息域内保全実施計画【試験放鳥編】」、「参考資料 3：コウノトリの関東地域における野生復帰にむけて」の説明

以上